

「第3期裾野市スポーツ推進計画(素案)」に関するパブリックコメントの実施結果について

(裾野市教育委員会生涯学習課)

1. 募集期間 令和7年12月12日(金)～令和8年1月13日(金)

2. 提出件数

提出方法	人数(人)	件数(件)
窓口持参		
ウェブフォーム	2	5
郵送		
FAX		
計	2	5

3. 意見の概要と市の考え方

No.	ご意見の概要	意見に対する市の考え方(回答)
1	<p>教育に関するアンケートで、「市民体育館、運動公園など、スポーツ活動施設の整備」への要望が最も高い回答率を得ている。また、第3章4では、スポーツツーリズムの推進として陸上競技場トラックの活用が述べられている。</p> <p>これらから考えて、陸上競技場の整備は市民の望むことと考えられるにもかかわらず、2026年に公認期限を迎える陸上競技場の整備を、4レーンのトラックにするという計画があるようだが、この選択は、競技の実情を全く知らない部外者の考えとしか思えない。スポーツツーリズムの推進は誠に結構なことで、陸上競技場を公認の競技会に使っている裾野市陸上競技協会としても、市のラン</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>今回の改修に際しては、市の陸上競技協会や陸上団体の意見を踏まえ、今後実施していくべき公共施設の施設改修等を総合的に捉え、財政状況等も踏まえ、曲走路を4レーン工事の設計を行ったところでございます。</p> <p>いただいたご意見は、計画を推進するうえで参考とさせていただきます。</p>

	<p>ニングイベントなどに人員を提供して協力を惜しんでいない。しかし、4 レーンとなってしまう競技会はまともに開催出来なくなってしまう。来年度の一時的な市費節減の為に、平成 8 年、1996 年から 30 年間、市民の大切な財産として利用してきた競技場が、使い物にならない「ただの運動場」になってしまう。そのために苦勞していかなければならないのは、裾野市陸上競技協会をその一員とする、スポーツを愛好する裾野市民である。また、競技がまともにできなくなるスポーツ愛好者、青少年の便益を損なう損失は計り知れない。</p> <p>スポーツ推進計画を立ててスポーツによる市民の健康確保、裾野市の活性化を図っていこうとするならば、陸上競技場の整備は、8 レーンのままで行うべきである。</p> <p>公認種別が 3 種から 4 種になるということの問題では無い。8 レーン有るトラックを 4 レーンにしてしまうことは、競技場を壊してしまうようなものである、ということが問題である。</p>	
2	<p>高齢者が無理なく、ひとりでも参加できるスポーツを</p> <p>高齢者向けの健康づくり・介護予防について、「市内のどこで・どのくらいの頻度で・どのような運動ができるのか」を地図や一覧で分かる形で示してはどうか。歩いて行ける公園や公民館など、移動負担の少ない場所での定期開催や体力に不安のある人でも参加できる“ゆるやかな運動”の明示、「運動」だけでなく「人と会える場」としての位置づけなどの方向性で、高齢者が「頑張らなければならない運動」ではなく、「自然に外に出たくなる場」とし</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。</p> <p>ご提案いただきました、「市内のどこで・どのくらいの頻度で・どのような運動ができるのか」を分かりやすく示す工夫や、身近な公園・公民館等を活用した移動負担の少ない場での実施、体力に不安のある方でも参加しやすい運動内容の明示、また運動の場を「人と会い、交流できる場」として捉える視点につきましては、高齢者が自然に外出し、継続的に参加できる環境づくりの観点からも有意義なご意見であると考えております。</p>

	<p>て参加しやすくなるのではないのでしょうか。</p>	<p>今後、関係部署や関係団体と連携しながら、高齢者が「頑張らなければならない運動」ではなく、「無理なく参加でき、楽しみながら続けられる運動・交流の機会」としてスポーツ・運動に親しめるよう、ご意見を参考に取り組んでまいります。</p>
3	<p>子育て中でも、ちょっと体を動かせる工夫を子育て世代に向けて、長時間・定期参加を前提としないスポーツ機会を、計画上でも明確に位置づけてはどうか。</p> <p>親子で一緒に参加できる短時間プログラムや、公園・学校・公共施設を活用した「ついでにできる運動」、子どもを見守りながら参加できるよう時間帯を配慮した開催など。</p> <p>また、情報発信についても、「広報に載せる」だけでなく、SNSなど子育て世代が普段使っている媒体やタイミングを意識した発信を期待します。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。ご意見を踏まえまして、P23 生涯スポーツの推進（3）世代や、障がいの程度等に応じたスポーツ機会の創出、充実③の内容を下記のとおり補足修正します。</p> <p>（変更前）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事や家事、育児が忙しくなるとスポーツから離れてしまう状況が見られます。運動不足になりがちな働き盛りの世代や子育て世代が、仕事や家事、育児によりスポーツをする習慣を絶たれることのないよう、多種多様なニーズに合わせたスポーツ機会の創出を目指します。 ↓ <p>（変更後）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事や家事、育児が忙しくなるとスポーツから離れてしまう状況が見られます。運動不足になりがちな働き盛りの世代や子育て世代が、仕事や家事、育児によりスポーツをする習慣を絶たれることのないよう、長時間や定期的な参加を前提としない、短時間で気軽に参加できる取組や、日常生活の中で無理なく参加しやすい運動機会の提供など、多種多様なニーズに合わせたスポーツ機会の創出を目指します。

4	<p>子どもも保護者も、安心できる部活動の地域展開を部活動の地域展開については、教員の働き方改革だけでなく、子どもと家庭の視点からの安心材料を計画に明記してはどうか。</p> <p>参加費や用具代が過度な負担にならないようにすることや、送迎負担を軽減するための場所選定や時間設定を考えてはどうか。</p> <p>あらかじめ市の考え方を示すことで、保護者の不安を和らげ、地域展開への理解と協力が得られやすくなると考えます。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。</p> <p>部活動の地域展開につきましては、生涯学習としてのスポーツ活動の推進という観点から、子どもや保護者の視点を踏まえた配慮が重要であると認識しております。ご提案いただきました、参加に係る費用や送迎負担への配慮、保護者の不安軽減に関する考え方につきましては、今後の制度運用や取組を進める上での参考とさせていただきます。</p>
5	<p>善意だけに頼らない指導体制を</p> <p>指導者の確保・育成については、ボランティアに過度に依存しない方針を明確にし、次のような視点を計画に盛り込んではどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 謝礼・報酬・研修などの基本的な考え方 ・ 教員 OB、地域人材、企業人材など多様な担い手の想定 ・ 一人に負担が集中しないローテーションや支援体制 <p>これにより、指導者自身が無理なく関われ、結果として活動の継続性が高まると考えます。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。</p> <p>指導者の確保・育成につきましては、スポーツ活動を継続的に実施していく上で重要な課題であると認識しております。ご提案いただきました、ボランティアに過度に依存しない視点や、謝礼・研修の考え方、多様な人材の活用、一人に負担が集中しない体制づくりといった点につきましては、今後の指導体制の在り方を検討する上での参考とさせていただきます。</p>